

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	4	島外からの応援によるPR体制の推進	
事業名	ふるさと応援寄附金		
担当課名	財政課	所属長名	浦田重利
関係課名			
事業の目的	「新上五島町を応援したい」という思いを持っている方から寄附金を募り、本寄附金を財源として「つばき香り豊かな海と歴史文化を育む自立したしま」を目指し、8つの政策メニューに沿った事業を行い、活力に満ちた地域づくりに資することを目的とする。		
事業の内容	本町の寄附制度の周知を図り、寄附を募る。寄附者に対し本町の特産品を謝礼品として贈呈することで町のPR及び地元事業所への経済効果を与える。寄附金は、寄附者の意向に沿った事業に活用する。		
事業の実績・取組状況	ふるさと応援寄附金受付等運営経費 19,656千円 寄附謝礼(送料込) 19,191千円 発送用シール作成 61千円 寄附者の利便性を高めるためWeb申請、クレジット決済及びポイント制の導入。 クレジット決済手数料(12~3月) 388千円 ふるさと寄附申込システム料(12~3月) 16千円		
成果(できたこと)	寄附件数・金額共に前年度を上回る寄附を受けることができ、謝礼品の贈呈により広く本町をPRすることができた。また、寄附金を8事業(13,630千円)に有効的に活用できた。 寄附件数1,765件(H26年度 862件) 寄附金額52,082千円(H26年度 18,688千円)		
課題(できなかったこと)	他団体の取組も活発化しているおり、町内住民が他団体への寄附額や必要経費が本町への寄附額を上回る、いわゆる赤字状態とならないよう制度づくりを行い、一定の水準を保つ必要がある。		
担当課評価	B	本事業は、貴重な財源を得る事業であると同時に本町を全国へPRすることができ、取組方法を工夫しながら継続すべきである。	
課題の解決策(目標(KPI)向上に向けた今後の取組方法)	本町への寄附をきっかけとして広くPRすると同時に、謝礼品の中で本町へ来島する仕組みづくりを構築することで観光客延宿泊者数の増加に繋げる。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	4	島外からの応援によるPR体制の推進	
事業名	ふるさと応援団事業		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			
事業の目的	ふるさと応援団「上五島カンコロ倶楽部」は、本町に関する情報を発信し、本町の活性化を支援する方の輪を広げ、観光客の誘客と特産品のPRを図る事業であるが、更なる認知度向上と地場産業の振興強化を図る。		
事業の内容	認知度の向上と地場産業の振興を強化していくため、頑張る生産者や事業者等と連携し、ふるさと応援寄附金と連動して一体となった情報発信を行っていく。 年部費 10,000円（7月以降入会は5,000円） 特典 特産品ギフト発送・町観光物産センター-買い物時プレゼント （※H28年度からポイント制を導入）		
事業の実績・取組状況	88名の会員に、特産品詰め合わせを送付（年2回）した。 会員部費納入額 1,289千円（振込手数料差引後） 特産品商品額 1,289千円（※別途送料）		
成果（できたこと）	前年度以上の会員数を確保でき、本町の活性化を支援する方の輪を広げ、特産品のPRを図ることができた。 会員数 88名（H26年度 73名） 部費納入額 1,289千円（H26年度 665千円）		
課題（できなかったこと）	倶楽部の更なる周知徹底及びふるさと応援寄附金制度との差別化・連携。		
担当課評価	B	前年度以上の会員数を確保でき、本町の活性化を支援する方の輪を広げることに繋がった。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	ふるさと応援寄附金制度との差別化が難しくなっている。 事業の内容を整理する必要がある。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる
具体的な施策	(2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む
	4 島外からの応援によるPR体制の推進
事業名	観光物産大使事業
担当課名	観光商工課
関係課名	
所属長名	安 永 佳 秀
事業の目的	新上五島町にゆかりがあり、町外に居住する方で、本町の観光振興に寄与すると思われる方を観光物産大使と委嘱し、町の観光資源や魅力を様々な機会を通して発信していただくことで、自然豊かな自然環境や観光情報を広く紹介し、交流人口の拡大、観光振興とイメージアップを図る。
事業の内容	本町にゆかりのある文化人や芸能人を大使として任命し、大使の活躍するあらゆる機会を通じた紹介・宣伝のPR活動を行っていただく。 ○名刺や広報を含めた観光情報の送付 ○3年に1回更新
事業の実績・取組状況	36名の大使に名刺や広報を含めた観光情報を発送し、本町のPR活動を依頼した。
成果（できたこと）	従来の町広報誌に加え、観光・物産に特化した情報提供を行い、PR強化を図った。
課題（できなかったこと）	大使の数を増やすことができなかった。
担当課評価	B 町内外のイベント・祭事などをまとめたものを作製し、毎月の広報といっしょに発送し、更なる情報の発信を行っています。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	これまで以上にPRを行い大使の数を増やしていく。また、『PR大使育成事業』とも連動しながら事業を進めていく。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	4	島外からの応援によるPR体制の推進	
事業名	PR大使育成事業【新規】〈ひと再掲〉		
担当課名	教育委員会・観光商工課	所属長名	中村孔一・安永佳秀
関係課名			
事業の目的	子ども達の愛郷心を育み、進学や就職等で島を離れた後、本町のPR活動を通して町の活性化に寄与してもらうことを目的とする。		
事業の内容	町内の学生を対象とし、愛郷心を育むことを目的とした「出前講座」や「体験学習」等を積極的に推進し、島を出る直前の子ども達に、故郷の素晴らしさを改めて体感させ、町内高校全ての卒業生に観光名所や特産品等が紹介された名刺を配布し、本町のPR活動に役立てて、この卒業生が成人式の際、成人祝として希望者に個人名入りの名刺を配布し「新上五島町PR大使」として任命しPR活動を行う事業。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	卒業生の調査。名刺代等の積算・予算化〈観光商工課〉		
課題（できなかったこと）	愛郷心を育むために、どのような施策が有効か、教育委員会と協議することができなかった。〈観光商工課〉		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	高校と事業の進めにかたについて協議を行い、有効な事業とする。 愛郷心を育むことを目的とした「出前講座」や「体験学習」等を積極的に推進する。		
委員評価	—	次年度以降に評価（主分野：ひと）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。